

この単線の無人駅たちが
線路で繋がった学校のようになればいい
教員や学生など関係者の行き来が始まり
そこから地域は変わっていく

住民も気付かなかったような
あらたな観光資源も見つかったり
少しずつ地域のイメージが変わる

毎月、研究成果を発表
地域の人々と話しあい、研究成果を実施する
無人駅を改修したり
デザイン案を商品化したり
イベント案を実施したり…

学生は毎年入れ替わる
それでいい
育ったものは外に出る

多くの人々が目的をもって来往し
ちいさな成果を出していく
それだけで地域は変わる

野菜を作るようにデザインし
デザインするように野菜を売る

研究者は地域の生活に乗り入れし
住民は研究に乗り入れする

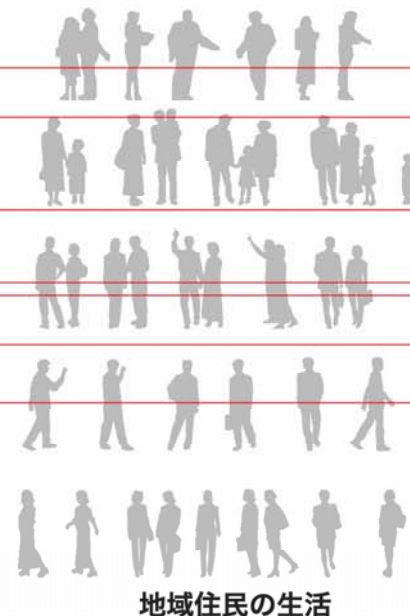
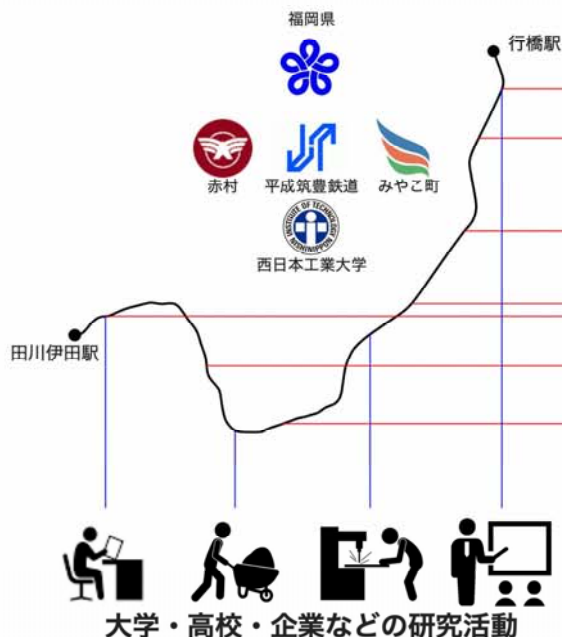
「有人の無人駅」を活用した
研究と生活の「乗り入れ」

研究

生活

「有人の無人駅」を活用した研究と生活の「乗り入れ」

近年、全国的に鉄道駅の無人化が進んでおり無人駅の様々な活用方法が模索されています。この計画は平成筑豊鉄道田川線という地域の鉄道に大学などの研究活動を持ち込むことで地域を活性化する新たな試みです。



1. 平成筑豊鉄道の様々な取り組み



平成筑豊鉄道では「令和」初の新駅として、木を使ったデザインの令和コスタ行橋駅を2019年8月に開業しています。新駅のデザインはレストラン列車「ことこと列車」のデザイナーである株式会社ドーンデザイン研究所の水戸岡鋭治氏によるものであり、待合室、ホームの床及び壁には「筑豊杉」、出入口スロープの手すりには地元「京築ヒノキ」を使用するなど県産材がふんだんに使用されています。また2018年には水戸岡鋭治氏によるアドバイスのもと、新豊津駅を地元の中高一貫校育徳館の生徒50人により塗装工事がなされるなど地域の手で駅舎を整備するという機運が高まっています。



この取り組みをきっかけとして平成筑豊鉄道田川線の各駅を整備、リデザイン、福岡の地域材を使用しながら木質化することを目指して福岡県行橋農林事務所と西日本工業大学による「京築のヒノキと暮らすプロジェクト」との連携を開始しました。



2. 福岡県と西日本工業大学による、筑豊京築地域での取り組み



福岡県行橋農林事務所と西日本工業大学では、京築地域のシンボルツリーである「京築ヒノキ」に新たな息吹を与えるため2015年より「京築のヒノキと暮らすプロジェクト」略称「ちくらす」が開始されています。「ちくらす」では地域の木工作家の協力のもと商品開発を行い、北九州市内の百貨店など複数箇所販売を行っています。この取り組みで「ウッドデザイン2017」を受賞しています。また京築ヒノキを使った建築デザインの取り組みとして、マンションリフォームでRenovation of the year 2018に最終ノミネートされ福岡県内の牡蠣小屋計画でSD-Review-2017に入選するなど様々な賞を受賞しています。



3. 平成筑豊鉄道の「九州一」と「日本一」 無人駅でうまれる活動の「乗り入れ」



内田三連橋梁
筑豊の近代化遺産として知られる三連橋梁の二つの構造物はレンガと切石によるもので、特徴ある形態と古くから残る周囲の景観が評価され、ともに国の登録有形文化財となっている。

1999年11月18日登録 (40-0011)



石坂トンネル (第二隧道)
1895年建造の九州で一番古い鉄道トンネルで赤村にはレンガと切石による鉄道関連の橋梁が大小10数基ある。大きな開発事業がなく農村としての景観を今に維持することができたため、近代化遺産群が良好な状態で保存されている。

1999年11月18日登録 (40-0012)



九州一古い木造駅舎
油須原駅

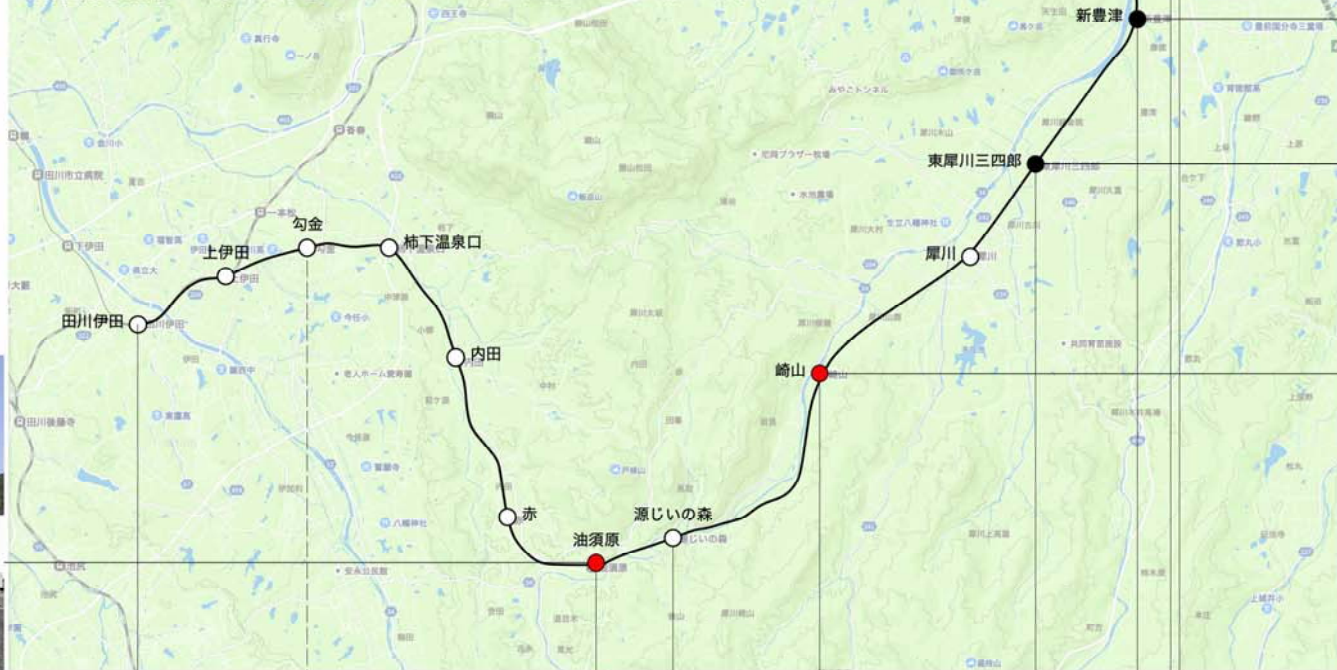
平成筑豊鉄道田川線は1960年代までは筑豊炭田からの石炭の積み出しを担っていましたが、現在は沿線駅のすべてが無人駅となっています。

田川線には歴史的に重要な建造物が数多く残っており、第二石坂トンネルは九州最古の鉄道トンネルです。煉瓦と石で造られた三連アーチ橋の内田三連橋梁は国の登録有形文化財に登録されており、赤村にある油須原駅は「九州最古の現役木造駅舎」です。

また、官営八幡製鉄所製のコスチックレンガを使用した構造形式が特徴の崎山駅は全国の鉄道ファンから愛着を込めて「日本一のオンボロ駅舎」として有名です。

そして両駅とも地域のシンボルとして愛されているが現在は無人駅となっています。

今回の提案は、この2つの駅を含めた沿線の無人駅を活用し周辺高校や大学などの教育研究活動を「乗り入れ」させることで平成筑豊鉄道田川線を活性化する試みです



福岡県立大学 田川高校 北九州市立大学 西日本工業大学 西日本工業大学 西日本工業大学 育徳館 西日本工業大学
教育研究活動の乗り入れ



令和コストア行橋



美夜古泉駅



新豊津駅



東岸川三四郎駅



日本一のオンボロ駅舎
崎山駅

4. 教育研究活動の乗り入れ事例 西日本工業大学による既存駅舎の木質化



現在、西日本工業大学では平成筑豊鉄道田川線既存駅舎の木質化を行なっています（上図●が木質化実施駅）。京築ヒノキや地域材を用い地元高校である行橋高校などの協力を得て施工を行なっており、2019年度には東岸川三四郎駅、2020年度には美夜古泉駅の木質化が完了しており、2021年度には行橋駅の改修を予定しています。また、このような取り組みを継続的に行うための活動拠点として油須原駅の活用も検討されています。

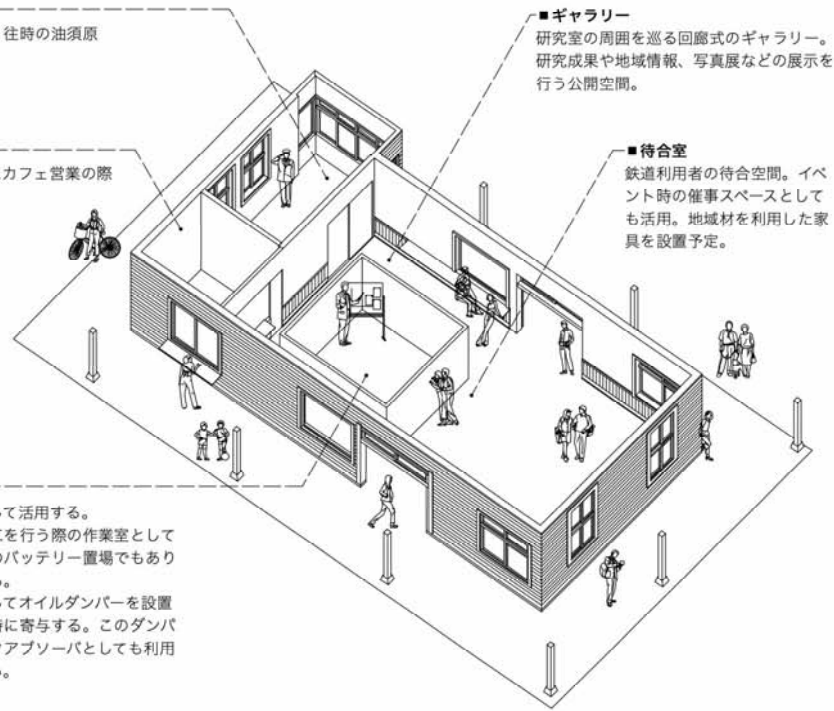


5. 有人の無人駅：まずは2つの拠点無人駅を「有人化する」

油須原駅の 有人化

九州最古の木造駅舎の風情を保ちながら、待合室機能、公開機能、研究機能の三つの性格をもつ空間を配置します。待合室、鉄道体験室については極力往時の姿の復元を目指し、仮設ラボなどは別デザインの入れ子状の独立空間とします。仮設ラボの周りは常時開放され地域資料などの展示ギャラリーとして活用します。

地域の生活研究室



崎山信号所時代の重要な鉄道遺産として古レールの構造を露出させた記念碑として再生します。デッキスペースを設けたホームやオープンスペースをマルシェや公園として機能させます。解体する木造部分の建具などは油須原駅の改修に有効活用します。

崎山駅の 有人化

地域のメモリアルパーク



6. 平成筑豊鉄道のこれから：地域活動および研究活動スケジュール

2018年

京築ヒノキのベンチをデザイン



2019年

東岸川三四郎駅の木質化



2020年

美夜古泉駅の木質化



2021年 研究1年目

小水力発電、太陽光発電設置
ライトアップ実験
既存テナント解体
木製建具等設置
制震装置の設置
建築物調査

2022年 研究2年目

ライトアップ実施
登録有形文化財申請
建築工事（ギャラリー整備）
駅舎内使用家具の設置
風力発電実験
ノベルティ等の開発
源じいの森駅木質化
行橋駅の木質化実施

2023年 研究3年目

登録有形文化財登録（予定）
周辺外構、ランドスケープ工事
鉄道遺産のライトアップ
勾金駅の改修

2024年 研究4年目(自立化)

研究室の外部貸し出し
イベント実施
勾金駅への研究室移動

2025年 研究5年目(自立化)

研究室の外部貸し出し
イベント実施

→ 地域の生命線としての平成筑豊鉄道田川線へ

7-1.

有人の無人駅 たとえば油須原駅の場合

研究事例3：
地域の情報提供による建築物復元
西日本工業大学

研究事例4：
小水力発電を利用した仮設ラボ設置
西日本工業大学

研究事例2：
地域素材によるマーケットおよびカフェイベントの実施
地域創生学群担当

研究事例1：
制震装置付意匠壁
江戸川木材工業株式会社+西日本工業大学

九州最古の木造駅舎「油須原駅」
地域の住民と大学が協力して
地域資源を活かした研究を行う

研究活動して

情報共有して

地域商品として販売する

小水力発電研究 イルミネーション(発電活用) 旧車EV化(発電活用)



再生可能エネルギー研究

研究支援(切符販売) 研究報告(中吊り利用) 研究報告(駅舎掲示板利用)



鉄道を活用した研究成果の周知方法

野菜のマーケット キングポストハンガー 三連ゲタ



地域の素材を活用した研究

7-2.

有人の無人駅 たとえば崎山駅の場合



建築を
中から直すのではなく
外から支えます

まずは
救うための方法としての処置
外部制震装置で建築を支えます

さらに支えるのは
鉄道ファンと地域の人々
そして旅客駅を誘致した故人達達

この駅は
筑豊の小さな無人駅です
確かに駅の中には人が居ません

だけど
確かに何か、居る
そして駅の外に人々が集まる
そんな「有人の無人駅」



建築を支える空間を通過するという体験。
わたし自身も建築を支える主体なのです。

古レールの刻印
1911年、官営八幡製鉄所製の刻印が確認できる



明治期のレールに尊敬と畏怖を感じる。
しかし古レールの構築物の内側には決して立ち入ることが出来ない。



旅客駅待合室は記念石碑を移設した展示空間となっ
ている。待合室には往時の人々の思いが充満している。



車窓から見える夕陽に照らされるレール。
古レールの構築物は外部制震装置で支えられている。



日本一のオンボロ駅 「崎山駅」

古レールを残した メモリアルパークを 整備する

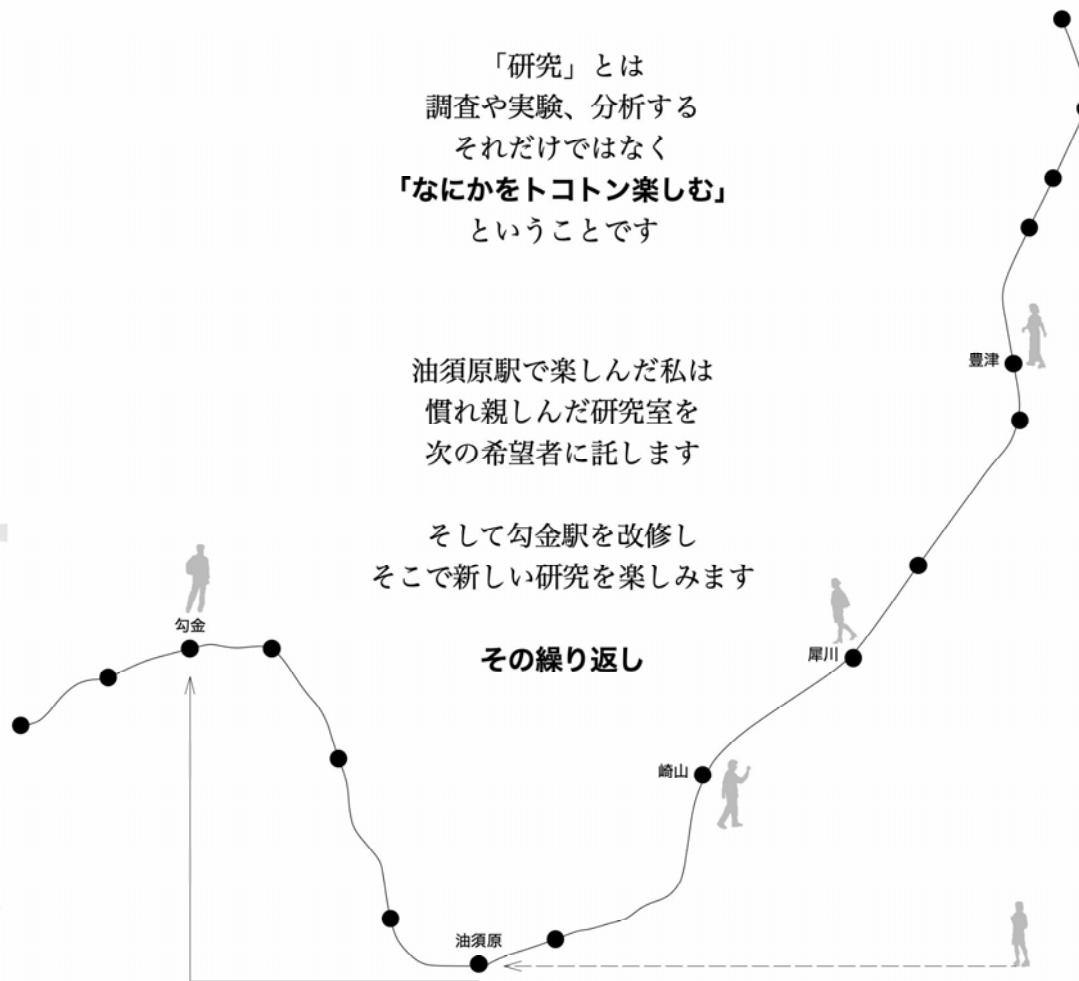
楽しむ
研究

「研究」とは
調査や実験、分析する
それだけではなく
「なにかをトコトン楽しむ」
ということです

油須原駅で楽しんだ私は
慣れ親しんだ研究室を
次の希望者に託します

そして勾金駅を改修し
そこで新しい研究を楽しみます

その繰り返し



やがて無人駅の多くが
「有人の無人駅」となります

そして私たちは
平成筑豊鉄道田川線で
楽しみながら
生きるのです

生活
生きる